

紫波町におけるR1～R6年のクマ出没情報 (1月～3月)



最新の出没情報は紫波町公式LINEにて配信しています。



1月～3月の間、基本的にクマは冬眠をしているため出没が確認されることは滅多にありませんが、今年は全国的に冬眠をしないクマというものが話題になっており、紫波町でも1月になつてからも紫波サービスエリア周辺でクマの痕跡が確認されています。この時期はクマと遭遇するリスクは非常に少ないですが、ゼロではないということは覚えておいていただければ幸いです。

冬に出没をするクマは場所を移動するためなどの理由でたまたま冬眠穴から顔を出してきたクマか、冬眠をせず餌を探しているクマのどちらかです。前者と遭遇することはまれで、すぐに冬眠に戻るため出没が続くことはありませんが、後者の場合は山にエサがない季節であるということも相まって、人家周辺に頻繁に出没を繰り返すこともあります。

この時期にクマが餌として狙うのは木に残っている柿の実や家畜用の飼料、保管している米などになります。クマと遭遇するリスクを減らすためにはこれらのクマを呼び寄せる誘引物の管理を徹底し、クマに餌場として覚えられないようになります。また、来年度の春には今年度の秋の実りが少なかつたことからクマが人家周辺に出没するリスクが非常に高まる懸念されますので、今のうちから誘引物の管理を見直すことは今後の被害リスクを抑えることにもつながります。

クマの出没が少ない今の季節だからこそ、身近なクマ対策について見直す良いタイミングではないでしょうか。



世界には全部で8種類のクマが存在している。ホッキョクグマ、ヒグマ、アメリカクロクマ、アジアクロクマ（ツキノワグマ）、マレーグマ、ナマケグマ、メガネグマ、ジャイアントパンダだ。

このうち日本に野生で生息しているのはヒグマ（北海道）とツキノワグマ（本州以南）の2種類になる。クマの仲間で最も大きいのはホッキョクグマで、体長は2.5mを超える。体重は600kgを超えることもあるとされている。逆に最も小さいのはマレーグマで、体長は100cm程度、体重は50kg前後となる。

一方で、クマによるキャンプ場での人身被害が問題となつており、クマを寄せ付けない誘因物管理の徹底を行うためにベア・キャニスター（キャンプ中の食料を安全に保管しておくための保管庫）の設置が義務づけられている。

イタリア北部では絶滅回避のためにクマが再導入をされた過去があるが、近年では再導入された地域でクマによる農作物被害や人身被害が問題となつており、クマを管理することの難しさを感じさせる。

比較的温厚であるとされているパンダでも時には人身事故を引き起こすことがある。

世界にいる8種類のクマのうちヒグマとアメリカクロクマを除く6種類が絶滅の恐れがある種とされており、毛皮などの利用目的による乱獲や農作物等の被害防止を目的とした捕獲によりその数を減らしている種も存在している。

一方で、クマの被害が増加しているのは日本だけではなく、世界的に見てもクマによる農作物や人への被害は増加傾向にあるとされている。その原因としてはクマの生息地減少や人の生活圏の拡大になるとさまで問題となつてているのは日本だけに限った話ではない。



紫波クマ通信

10号

発行

2026年1月15日
紫波町環境課
地域おこし協力隊
近藤雄太

出張鳥獣相談会

開催日

1月17日(土)
志和公民館
11時～14時
2月15日(日)
赤沢公民館
12時～15時
2月18日(水)
佐比内公民館
13時～16時
2月24日(火)
彦部公民館
13時～16時

実はパンダも
ちよこっとクマ知識
クマの仲間



今月の話題

世界のクマ事情

